



T

S

E

G

A



中島敦







山月記

中島敦

進み、 方官吏の職を奉ずることになった。 のために遂に節を屈して、再び東へ赴き、 に登第した頃の豊頬の美少年の俤は、何処に求めよ 肉落ち骨秀で、眼光のみ徒らに炯々として、曾て進士 は容易に揚らず、生活は日を逐うて苦しくなる。 下吏となって長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは、詩家と 後は、故山、虢略に帰臥し、人と交を絶って、ひたすら詩作に耽った。 賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。 いくばくもなく官を退いた いで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃むところ頗る厚く これは、言の詩業に半ば絶望したためで く焦躁に駆られて来た。この頃からその容貌も峭刻となり、 しての名を死後百年に遺そうとしたのである。しかし、文名 隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、 彼が昔、鈍物として歯牙に 曾ての同輩は既に遥か高位に 数年の後、貧窮に堪えず、 MAN TO WAR THE STATE OF THE STA 若くして名を虎榜に連ね、 THE STATE OF THE S The state of the s

聞えた。その声に袁傪は聞き憶えがあった。驚懼の中にも、彼は咄嗟に思いあたって、 かと見えたが、忽ち身を飜して、元の叢に隠れた。叢の中から人間の声で「あぶないところだった」と繰返し呟くのが よりに林中の草地を通って行った時、果して一匹の猛虎が叢の中から躍り出た。虎は、 が出る故、旅人は白昼でなければ、通れない。今はまだ朝が早いから、 袁傪は、しかし、 次の朝未だ暗い中に出発しようとしたところ、駅吏が言うことに、 翌年、監察御史、陳郡の袁傪という者、勅命を奉じて嶺南に使し、途に商於の地に宿った。 供廻りの多勢なのを恃み、駅吏の言葉を斥けて、 叫んだ。 今少し待たれたが宜しい あわや袁傪に躍りかかる 出発した。残月の光をた これから先の道に人喰虎

一その声は、 我が友、 李徴子ではな か?

Ø

O

今から一年程前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、

声に応じて外へ出て見ると、声は闇の中から頻りに自分を招く。 覚えず、 自分 は声 を 追うて 走り 出 と、戸外で誰かが我が名を呼んでい

無我夢中で駈けて行く中に、何時しか途は山林に入り、しかも、 知ら ぬ間 に 自分は左右 の手で 何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、 地を攫が んで 走ってい

軽々と岩石を跳び越えて行った。

気が付くと、手先や肱のあたりに毛を生じているらしい。

少し明るくなってから、谷川に臨んで姿を映して見ると、既 に虎 つ 7 W た

自分は初め眼を信じなかった。次 に、これは夢に 違 いないと考えた。

夢の中で、これは夢だぞと知っているような夢を、自分はそれまでに見たことがあったから、

どうしても夢でないと悟らねばならなかった時、 自分は茫然とした。 そうして懼れ

どんな事でも起り得るのだと思うて、深く懼れた。 しかし、 何故こんな事になったのだろう。

分らぬ。全く何事も我々には判らぬ。

理由も分らずに押付けられたものを大人しく受取って、理由も分らずに生きて行くのが、我々生きもののさだめだ。 分 直; **(**\* に 死を想象 うた

再び自分の中の人 その時、眼の前を一匹の鬼が駈け過ぎるのを見た猛端に、 伯間が目を覚ました時、自分の口は鬼の血に塗れ、 自分の中の人間は忽ち次を消した あたりには鬼の毛が散らばっていた。

これが虎としての最初の経験であった。それ以来今までにどんな所行をし続けて来たか、それは到底語るに忍びない 一日の中に必ず数時間は、人間の心が還つて来る。

その人間の心で、虎としての己の残虐な行のあとを見、己の運命をふりかえる時が、 そういう時には、曾ての日と同じく、人語も操れれば、 複雑な思考にも堪え得るし、経書の章句を誦んずることも出来る。

ŧ な 恐 l

しかし、その、人間にかえる数時間も、日を経るに従って次第に短くなって行く。

今までは、どうして虎などになったかと怪しんでいたのに、この間ひょいと気が付いて見たら、

己はどう して以前、人間だったのかと考えていた。 こ れ N

だ

今少し経てば、己の中の人間の心は、獣としての習慣の中にすつかり埋れて消えて了うだろう ちょうど、 古い宮殿の礎が次第に土砂に埋没するように

そうすれば、しまいに己は自分の過去を忘れ果て、 一匹の虎として狂い廻り、

今日のように途で君と出会っても故人と認めることなく、君を怨き喰うて何の悔も感じないだろう。

獣でも人間でも、もとは何か他のものだったんだろう。

いや、そんな事はどうでもいい。己の中の人間の心がすっかり消えて了えば、 初めはそれを憶えているが、 その事を、 第 に この上なく恐しく感じているのだ。 忘 れ τ 、初めから今の形のものだったと思い込んでいるのではないか? 恐らく、 その方が、 己はしあわせになれるだろう。

人間だった記憶のなくなることを。 どんなに、 恐しく、 哀しく、 切なく思っているだろう!

この気持は離にも分がない。ひと同じ身の人がない。離にも分がない。ひと同じ身の人がない。

つ頼んで置きたいことがある。ところで、そうだ。己がすっかり人間でなくなって了う前に、

る不思議に聞入っていた。声は続けて言う。袁傪はじめ一行は、息をのんで、叢中の声の語

戴きた なくな りでい まだ世に行われ に立至った。 他で 産を破り心を狂わせてまで自分が生涯それ いでは、 って もな したところのものを、 いのだ。 のが数十ある。 しかも、 いよう。 のではない。 V. 曾て作るところの詩数百篇、 何も、 死んでも死に切れないの 自分は元来詩人として名を成す積 ておら 業未だ成らざる ところ これに仍って一人前の詩人 Ŕ これを我が為に伝録 作の巧拙は知らず、 遺稿の所在も最早 で、 その 部なりとも後 中 今も この 固より、 尚記き 判ら 運命 代

袁傪は部下に命じ、筆を執って叢中の声に随つ

草つ この虎の中 なが な男を。 いでに、 に、 (袁傪は昔の青年李徴の自嘲 今の懐を即席の詩に述べて見ようか。 まだ、 く聞い 曾ての李徴が生きてい 7 6 た。) そうだ。 お笑い 3

の詩に言う。

3.

今 日 偶 為異 因狂 夕渓 爪 牙誰 疾成 山 物蓬茅下 対 敢敵 明 類 君已乗 不 患相 成 長 声 嘯 跡 軺気勢豪 仍 共相 但 不 成 可 高

間を渡る冷風は既に暁の近きを告げていた。人々時に、残月、光冷やかに、白露は地に滋く、樹

まで 3. 読して作者の才の非凡を思わせるものば 常に微妙な点に於て)欠けるところがあるの うに感じてい するもの て書きとらせた。 しかし、 は、 長短凡そ三十篇、 第 であることは疑いな 袁傪は感嘆しながらも漠然と次のよ 流 た。 の作品となる 成程で 李徴の声は叢の中から朗々 作者の素質が第 格調高雅、 0) V. に しかし、 は、 意趣卓逸、 何 ど か かりであ 流に属 ح では のま

自らを嘲るか如くに言つた。旧詩を吐き終った李徴の声は、突然調子を変え、

か、

٤

がある 嗤ってく 人士の机の と成り果てた今でも、己は、 羞しいことだが、今でも、 のだ。 n 上に置かれている様を、 岩に 詩人に成りそこなって虎になった哀 0) 中に横たわ 己の詩集が長安風流 こんなあさましい っ て見る夢 夢に見ること

この奴隷は難にも身でない。 参加も分でない。 過じ身のよに成った者でなければ。この気料は誰にもみらない。 難じも

の薄倖を嘆じた。李徴の声は再び続ける。は最早、事の奇異を忘れ、粛然として、この詩人

だとい たとは云わな の郷党の鬼才といわれた自分に、 であることを、 めて人との交を避けた。 とが全然ないでもない。 たが、 何<sup>な</sup> 故<sup>ぜ</sup> b も潔しとし んを交っ うべきものであった。 った。 こんな運命になっ しかし、 か 実は、 とい て切磋琢磨 ながら、進んで師に就いた V. 人々は知らなかっ なか 考えように依 しか それが殆ど羞恥心に近い て、 った。 义 人々は己を倨傲だ、 たか判らぬと、 に努めたりすることをし 人間であった時、 それ 己は詩によって名を は俗物 は臆病な自尊心と れば、 た。 自尊心が無かつ 勿論、 0 先刻 い当るこ 己は努 曾て もの 尊大 従は言 伍ご

# 共に、我が臆病な自

尊心と、尊大な羞恥心

とを惧れるが故に、敢て刻苦しるべきを半ば信ずるが故に、敢て刻苦しるべきを半ば信ずるが故に、敢て刻苦して鬼に伍することも出来なかった。記は次第に世と離れ、人と遠ざかり、憤悶と慙恚とによって益々己の内なる臆病な自尊心を飼いふとらせる結果になった。人間は誰でも猛獣使であり、その猛らせる結果になった。人間は誰でも猛獣使であり、その猛らせる結果になった。人間は誰でも猛獣使であり、その猛らせる結果になった。人間は誰でも猛獣使であり、その猛らせる

露するかも知れないとの卑怯な危惧と、 長いが、何事かを為すには余りに短いなどと口先ばかりの警句を弄しながら、 己の有っていた僅かばかりの才能を空費して了った訳だ。 果ては、己の外形をかくの如く、内心にふさわしいものに変えて了ったのだ。今思えば、全く が猛獣だった。虎だったのだ。これが己を損い、妻子を苦しめ、友人を傷つけ 刻苦を厭う怠惰とが己の凡てだったのだ。 人生は何事をも為さぬには余りに 己よりも遥かに乏しい才 事実は、才能の不足を暴

獣に当るのが、

悲しみを誰かに訴えたいのだ。己は昨夕も、彼処で月に向って咆えた。誰かにこの苦しみが分って貰えないかと。しかし、 獣どもは己の声を聞いて、 か考えない。天に躍り地に伏して嘆いても、誰一人己の気持を分ってくれる者はない。ちょうど、人間だった頃 己の傷つき弱い内心を誰も理解してくれなかったように。己の毛皮の濡れたのは、 能でありながら、 う手段で発表できよう。まして、 としての生活は出来ない。たとえ、 己は堪らなくなる。 己は漸くそれに気が付いた。 漸く四辺の暗さが薄らいで来た。 それを専一に磨いたがために、堂々たる詩家となった者が幾らでもいるのだ。 懼れ、 そういう時、己は、向うの山の頂の巖に上り、空谷に向って吼える。この胸を灼く ひれ伏すばかり。 それを思うと、己は今も胸を灼かれるような悔を感じる。己には最早人間 己の頭は日毎に虎に近づいて行く。どうすればいいのだ。 今、己が頭の中で、 木の間を伝って、 山も樹も月も露も、 何処からか、 どんな優れた詩を作ったにしたところで、どうい 一匹の虎が怒り狂って、 暁角が哀しげに響き始めた。 夜露のためばかりではない。 哮っているとし 己の空費された

に告げて貰えないだろうか。決して今日のことだけは明かさないで欲しい。厚かましいお願だが、 虢略にいる。 李徴の声が言った。 最早、別れを告げねばならぬ。 孤弱を憐れんで、今後とも道塗に飢凍することのないように計らって戴けるならば、 固より、 これに過ぎたるは莫い。 だが、お別れする前にもう一つ頼みがある。それは我が妻子のことだ。彼等は未だ 己の運命に就いては知る筈がない。君が南から帰ったら、 酔わねばならぬ時が、(虎に還らねばならぬ時が)近づいたから、と、 己は既に死んだと彼等 自分にとって 彼等の

本当は、 たい旨を答えた。李徴の声はしかし忽ち又先刻の自嘲的な調子に戻って、言った。 先ず、 言終って、叢中から慟哭の声が聞えた。 この事の方を先にお願いすべきだったのだ、 袁傪もまた涙を泛べ、欣んで李徴の意に副い 己が人間だったなら。 飢え凍えよ

うとする妻子のことよりも、己の乏しい詩業の方を気にかけているような男だから、 は自分が酔っていて故人を認めずに襲いかかるかも知れないから。又、今別れてから、 そうして、 あの丘に上ったら、此方を振りかえって見て貰いたい。自分は今の姿をもう一度お目に掛けよう。 附加えて言うことに、袁傪が嶺南からの帰途には決してこの途を通らないで欲しい、その時にいた。 こんな獣に身を堕すのだ。 前方百歩の所にある、

勇に誇ろうとしてではない。我が醜悪な姿を示して、以て、再び此処を過ぎて 自分に会おうとの気持を君に起させない為であると。

袁傪は叢に向って、懇ろに別れの言葉を述べ、馬に 上った。叢の中からは、又、堪え得ざるが如

き悲泣の声が洩れた。袁傪も幾度

か叢を振返りながら、涙の中

に出発した。

一行が丘の上についた時、

彼等は、言われた通りに振返って、

先程の林間の草地を眺めた。忽ち、一匹

を彼等は見た。虎は、既に白く光を失っ

の虎が草の茂みから道の上に躍り出たの

た月を仰いで、二声三声咆哮したかと

思うと、又、元の叢に躍り入って、

再びその姿を見なかった。



### 解 説 李徴はなぜ虎になったのか? 私たちも虎になるのか?

李徴の強い自意識が、多感な高校生には強烈な印象に残る作品 だ。やや難しい文体ながらも、人が虎になるという特殊な設定や 「山月記」と言えば、国語教科書に掲載され広く読まれる名作

だろう。袁傪の「その声は、我が友、李徴子ではないか?」という

授業で問われることもあるが、純粋に書かれた文章から読みと

な本作最大の謎は、"なぜ李徴は虎になったのか』という点だ。 キラーフレーズも人気で、SNSで度々ネタにされている。そん

ると回答は次のようになるだろう。

詩業」を優先する性格だったから。回答三:李徴が「産を破り心を 二:李徴が「飢え凍えようとする妻子のことよりも、己の乏しい 回答一:李徴の「臆病な自尊心と、尊大な羞恥心」のせい。回答

るだろう。 因果の解釈にあたっては、作者・中島敦についても知る必要があ り、虎となった真の理由かどうか、文中では明記されていない。 狂わせてまで」詩に執着したから。 しかしこれらは李徴が袁傪に自己分析として語った言葉であ なったのか判らぬ」と感じるか、「思い当ることが全然ないでも を背負う可能性は誰にもあるはずだ。その時「何故こんな運命に か。そんな奇怪なことは起こらずとも、自身が予想し得ない運命

中島敦は、明治四十二年、漢学者の家系に生まれた。東京帝国

よりほとんど無名のまま死去。享年三十三歳の若さであった。 |光と風と夢」が芥川賞候補にのぼるが入賞せず、十二月喘息に 時間の限られた人生、創作への執着。中島敦の生き様は李徴に

と重なった。「山月記」が発表されたのは昭和十七年二月。同年 に励む。持病の喘息と闘いながらの作家生活は、第二次世界大戦 大学を卒業後は高校教員となり、教師生活のかたわら執筆活動

そうであったように。 ら、その運命を受け入れてゆく物語なのである。恐らく、作者が 李徴という人間がなぜ虎になったのか自問自答しもがきなが は虎になったのか。。その答えは、、分からない。のだ。「山月記」は、 の史記編纂への執着が描かれている。本題に戻ろう。"なぜ李徴 重なる。遺作となった「李陵」においても、重要人物である司馬遷

翻って私たちはどうだろう。突然虎になることがあるだろう

う、毎日を生きるしかない。創作への執着があるなら尚更だ。創 ない」と自身に因果を認めるか。人生の解釈は己次第であるが、 れ。磨け。月に向かって咆哮せず済むように。 いずれにせよ「胸を灼かれるような悔を感じる」ことのないよ



### ベストフレンド











### 部下A











### 臆病な自尊心と 尊大な羞恥心









### モーニングルーチン













## 教科書にも掲載される名作「山月記」ですが、

どうぞ気楽にお読みください。 読み慣れない文体から「苦手」「読みにくい」と感じる方も多くいらっしゃいます。 そこで、ざっくりと山月記が分かるよう、いろんな文体で山月記を表現してみました。

6 李徴の「山月記」	ャルがマジ語りする「山月記」	わそわする恋愛ソングの女王の「山月記」	世界のおっちゃんの「山月記」らん兄ちゃんに急に誇り出す。
17	15	9	3

M

ギ

そ

新知

図解:見てなんとなくわかる「山月記」

21

新聞で報道される「山月記」

19

こでは、昔めっさ馬鹿にしとった同期やペーペーがだいぶ偉なってて、正味、むっちゃやりに ああぁ~! やすともどっちが姉でどっちが妹かすぐ忘れてまう~」ってわけわからんこと言 くかったんちゃうかなぁ。ほんで一年くらい経って、急に頭パーンなって出先で夜中に「うわ ってなって、結局、また役人に戻らはったんや。まぁー東のりーみたいなもんやな。ほんでそ には売れへんわなぁ。李徴には嫁はんも、ぼうずもおったから、「めし食わしていかなあかん」 てバーンて売れて。さんまをキャンいわして、歴史に名ぁ残したるわ」ゆうて、仕事辞めてん、 シの周り全員めっさアホで、こんなんの下で働くんやったら、芸人になってガーってネタ作っ ら、官僚? みたいな、お役人さんにならはったんや。せやけどなチエちゃん、李徴はな、「ワ 宇治原みたいにめっちゃかしこやねん、な! もうおもろいやろ? ほんでな宇治原みたいやか いながら出て行ってしもうてん。そっから李徴がどうなったか、だぁれも知らんねんて。 あんなぁ、だいぶ昔の話やねんけどな、中国に、李徴っていう兄ちゃんがおったんや。李徴てな おもろいやろ? ほんで何年か、芸人目指して過ごしとったんやけど、まぁーそない簡単

う奴が、出張である所に行ったんや。この袁傪っていうんは、菅ちゃんによう似たええ奴でな。 本題はこっからやねんけどな。李徴がおらんくなって一年後、 お役人さんの袁傪っちゅ

んねんて。その声に、袁傪、ピーンきて。「われ、まさか李徴かいな?」言うて聞いたんや。 ほんで草むらから、人間みたいな声で「あっぶなっ、あぶなぁー、あぶなっ」って聞こえてく もなんでか知らんけど、その襲ってきたはずの虎が、くるっと回れ右して草むらに戻ったんや。 軍団は「あっ! 虎や! 噛まれた方がおいしい」思て、我先にそっちに向かっていってん。で あ?」て思たら、いきなし黄色いんが、袁傪軍団めがけてガオーいうて跳んできたんや! 袁傪 そこらへんの草むらからガサガサ、ガサ……、ガサガサ、サササッ、ガサガサって音して、「は 真面目で、まだ日ぃ明けてへんのに、林ん中をバーっと進んでたんやって。ほんだら、急に、 んでしばらくシーンとしてんねんけど、草むらから声が答えたんや。

\_ せやで

草むら挟んで、色々話したんやって。 そら積もる話もあるわな。李徴が「こないなスべってる姿、絶対見せられへん」言うさかい 袁傪と李徴は、昔ツレやってんなぁ。人と虎でなんやややこしいけども、懐かしいツレ同士、

一日のうちにちょこっとだけ、人間の意識が戻るんやって。せやけど、最近だんだん、 んはしゃあないし、虎として、虎の意識ちゅうんかいな、それで生きとったみたいや。ほんで なんで李徴が虎になったんか、本人もようわからん言うとったで。ただ、もうなってもうた

しかでけへんなぁ。 「ワシは、そのうち完全な虎になってまうと思うんや……正味めっさおっとろしいわー」 言うとったで。そないな話されたら、袁傪は、ドリンキングバードみたいに黙ってうなずく ほなら李徴がこう言ったんや。

『お笑い』や。誰にもなぁーんも伝えんまま、笑わせへんままやったら、立派な虎さんになら れへん。な?頼むわ、この通り!」 ワシが作ったネタを、さらさらーっと書いて欲しいねん。頭パーンなってまうくらい執着した せや! ワシが完全に虎になってまう前に、一生のお願い、聞いてくれへんやろか?

5

こう思っててんて。 袁傪は下のもんに、李徴のネタをメモらせよった。せやけど袁傪はそれ聞いてみて心ん中で

みたいな髪型になってもうた釜本さんみたいやなぁ……」 「李徴のネタ、確かにようできとる。おもろい。おもろいねんけど、なんやろ、なぁんか足 、ひんのよなぁ……。掛布とバースが抜けた阪神みたいやなぁ……。 いや、髪の毛抜けてヅラ

んけど。 まぁ、李徴本人にはよう言わんけど、やっぱなんか欠けてるもんがあんねんやろねぇ、知ら

声で本音をしゃべり出したんよ。 袁傪の反応がイマイチやったからか、うすうす李徴も気づいたんやろな。ボソボソちっさい

ゃめちゃ繊細やったんや。まさに硝子の少年や。ハルカスみたいな顔しといて、ほんまは通天 ……。そんなしょうもない奴やから、この心にジャストサイズメニューな、虎の姿になったん ネタ書いて、テレビに出てる芸人とか、タレントに文句ばっかり言うて。そらぁ売れへんわな 師匠にもつかへん、養成所にも入らへん、他の若手芸人とライブもせえへん。一人でちまちま かしゅうて、怖ぁて、人と絡むんが嫌んなってきてな。お笑いで天下とったる一言うてたくせに、 閣くらい、いや、天保山くらいの実力なんがバレたらどないしよ。そんなん考えてたら、恥ず てな……自尊心、まぁプライドが、ハルカスくらい高かってん。でもな、そのプライドはめち っちゃおもろい奴やと思っとったんや。周りのボケやツッコミが、みぃんなしょうもなぁ見え 自分のせいやと思てんねん。あんたもよう知っとる思うけど、ワシは人間やった頃、自分がめ と違うかなぁ……」 「ワシなぁ……、 なんで虎になってもうたんかようわからん、てさっき言うたけど、 ほんまは

もできひんで。そんなん言うてる間に、夜明けが近づいて、周りがだんだん明るうなってきてな。 李徴、むっちゃ後悔してんねんな。でももう虎になってもうてるし、局長でもこれはどうに

聞いてくれへんかな。嫁はんとぼうずのことやねんけど、あいつらがすかんぴんにならんよ うに、ちょくちょく面倒みたってや。よろしゅう頼んます」 「ワシが人間の意識でおれるのも、あとわずかやさかい……。袁傪、最後にもひとつだけ頼み

時間も時間やし、李徴と袁傪は挨拶して別れてん。そんとき李徴な、この先の丘に登ったとこ で振り返ってくれって言うたらしいんや。 に頼まなあかんわ。一回、巨人師匠にしばかれたらええねん。それはまぁええけど。ほんでまぁ、 李徴、そういうとこやねんなぁ。普通やったら、自分のネタより、 嫁はんとぼうずのこと先

うむっちゃ悲しくて切なくて、袁傪は「上田正樹の歌みたいやった」言うとったで。 躍り出てきて、ガオーガオー言うて、また草むらん中入って行ったんやって。その鳴き声がも そんで、丘に登って振り返ったら、さっきまで自分らがいたとこに、一匹の虎がスタスターて 袁傪軍団は、売れへんかった芸人の末路を見て、どんよりした気持ちで進んで行ったんや。

知らんけど。

8

7

### そわそわする 恋愛ソングの女王の 「山月記」

•

•

W

•

w

彼は昔の友達だって、思い切って、聞いてみたその時、あたし、気づいたのた。 たしかに聞こえた虎の言葉あぶないところだった

ねぇ もしかして 李徴なの?

少し沈黙があったね でも覚えてるよ 忘れな 4) その懐かしい声

いかにも ぼくは 李徴

一緒に飲んだ メロンソーダでも覚えてるよ 忘れない 癖のある話し方うす暗い闇 草むらのカーテン 君の姿は見えない

虎になった君は言ったね

苦しいほどに 懐かしい ほんの少しでいい 僕と話をしてくれないかな

あぁ 君の優しさ 思い出したんだ

\* \* \*

気づかないふりを していたんだ本当は分かってた ぜんぶ自分のせいだってこと

臆病な自尊心と 尊大な羞恥心

冗談みたいな運命 誰か笑ってくれるかなねぇ それがきっと僕を虎にさせたんだねいの中に棲みついた 黒い想いが大きくなって

\* \* \*

生涯忘れることはないでしょう おたしは見たんだ 虎の君 一瞬だけふり返ったカーテン越しに別れを告げた朝 一瞬だけふり返った

### ギャルがマジ語りする 「山月記し」

中に謎に叫びながら、走って消えたんだって!そっから行方不明。ヤバくなーい? つらみーってメンタルヤバかったらしい☆ で、 に戻った? みたいなんだけど、元同期とかはもうめっちゃ出世してて、 あ、一人って言ってもちゃっかり妻子はいるんだけど、まぁそれは置いといて。でもしばら の名残したる☆」って思って仕事やめちゃったんだって。で、何年か一人で詩作ってたらしい 本人的には「え? みんなバカじゃね? こいつらの下で働くより、詩人になって歴史にオレ メンズがいたんだって。でなんか、役人?エリート的な?仕事に就いたらしいんだけどー、 くしたら「やっぱ詩で食べてくの無理ぽ、、、〇」ってなっちゃって。しょうがないから職場 ねーちょ聞いて? 中国のどっかに、りっちょん(李徴)っていう、頭いい、顔もイケてる 一年くらい前に、 りっちょん、出張先で夜 うわっ気まずー、

一年後、えんしゃん(袁傪)ってメンズが仕事で行くことになったらしいのね? えんしゃ で、こっからがマジでヤバい話なんだけどー、そのりっちょんがいなくなった場所の近くに

言ってんだって。人間の声で。「あぶなあぶな~、あぶな」って。ねぇこれびっくりじゃない? たら急にウワっと虎? が出てきて、えんしゃん襲われそうになったの! ヤバい! でもその んってめちゃ真面目で早起きでウケるんだけど、なんかそん時も、まだ日が明けてない暗い うちから「行っとこ行っとこ! go! go!」って言ってノリで林の中進んでたんだって。そし えんしゃん、ピーンときたの! なんでか分かんないけど襲って来なくて、逆に?草むらの方に隠れて、なんかブツブツ

「その声、マブのりっちょんじゃね?」

12

虎になってたの!! しかもなんかちょっと泣いてるし。草 ww そんで、えんしゃんと虎 (りっちょん) は、草むらごしに? 色々話したっぽい。 そしたら声が、「いかにも。 りっちょんだよぉ、、、ぴえん 🔞 」って。 そう、りっちょん、なんと 言ってなかったけど、えんしゃんってりっちょんの数少ないマブダチだったんだよね。

なんか、りっちょんが言うにはぁ、一年前、出張先で夜寝てたら、「りっちょん、りっちょん

まぁここでウソついてもしょーがないから、たぶんほんとだと思うけど。 てきて一、なんか分かんないけど気付いたら、虎になってたんだって りっちょーん」 ていったら (←?)、いつの間にか、 って誰かが呼ぶ声がしたらしいのね? でその声のする方にり 四つん這いになって一、 体毛がブワっと生え ほんとかな? しちょ

これおれ、もう虎100%になるのも時間の問題かも。。。虎しか勝たん。。。」って思ってるんだ りっちょんの意識が飛ぶ? ってかほぼ虎じゃね? みたいになってきてるらしくて、「あー 願いしてきたらしいのね。 って。かわいそ~ 🥹 でもま、タイミング良く? マブのえんしゃんに会えたからって、お で、それからずっと、りっちょんIN虎☆って感じで生きてきたらしい。ウケんね。けど最近

れん?」 ってかんじ。だから、今からおれの詩、30編くらい詠むから、TikTok かなんかにあげてく 悪いとか関係ないっしょ。とにかく作ったモノを誰かに伝えないと、 マジ、ガチで詩人になりたかったんよ。その想いは本物だと思う。 死んでも死にきれない 出来がいいとが

[ \$ d]

J たらしい 🐤 でも「いい詩だけど、微妙にバイブス足りないんだよなぁー 🥆 て えんしゃん、あとで裏垢で言ってたよ。いや直接言えよ えんしゃんは、とりまりっちょんの詩を部下にメモらせたんだって。めっちゃいい詩だっ なんでだろ?」

ン sage ) かが、 マジトークしてたからかもだけど、 になってきちゃったのね。 りっちょん、だんだん弱気になって、 テンショ

4

自分で進んでぼっちになった感あるよね、実際。要はこのこじらせが、おれの心の中の獣 じゃん? ぶっちゃけ自分でもレベチと思ってたんだよね。だからこそ、失敗するのが恥ずい のせいかも。。。。 「おれ、なんで虎になったかマジ分からんってさっき言ったけどさぁ、たぶんこれね、 イコール虎だったんじゃないかなーと思うんよ ってか、気まずいってか。ま一怖かった。自意識過剰ってか、 って思ってるんだよね。。。ほら、おれって昔地元じゃ天才って呼ばれてた 実際、虎になった今だから、過去の自分 こじら世系?って言うの? 自分

いがい がどんだけダサい奴だったのか、自覚できるようになってきたし。。。つらたん。。 ぴえんこえてぱおんこえて、ガオン。。。」 これはま

周り明るくなってきたんだって。 ウケるけど、 りっちょん、さすがにかわいそくない? そんな話してるうちに、だんだん

だけお願いなんだけど、おれの奥さんと子どものこと、なんとか頼む一」 「あ、やば。もうあれだ、虎タイム来るわ。。。悪い、 マブのえんしゃんに、最後もういっこ

「おけまる水産・」

たらおれの方見てよ?『またりっちょんに会いに行こ』って思われないように、ダサい闇堕 れってやっぱこういうとこあるんだよね一⊖ あそだ、えんしゃん、帰りはここ通らんでね? 「や、てか、 おれもう虎100%になってると思うから。でさ、今からあそこの丘に登るっしょ? そし フツーは自分の詩アップしてもらうことより先に、妻子のこと頼むよな。。。 お

ちしたおれの姿、晒すわ」

「おま、、、ぴえん 🐷 」

「ガオン、ガオン」って鳴いて、またいなくなったんだって 🐯 せつなー 🚷 振り返ったんだって。そしたらさっきまで話してた草むらから、ガチの虎がバーン出てきて いやぁ、、えんしゃんは、この時だいぶつらみちゃん。で、りっちょんと別れてから、丘登って、

どぉ、この話ヤバくなーい?

16

### MC李徴の「山月記」

Ah 李徴 in the house Ah いいか皆よく聞け

隴西の李徴は博学才穎 死後百年その名残すさ yeah

だけどある晩 突然 became a tiger

獣か人か判らないまま 運命 受け入れ生きるしかないか

1 year later 残月の林中出会った「その声 我が友李徴では?

17

yo my man 袁傪 そう俺だ 変わり果てた 異類の身「草叢 隔て語る我ら

聞いてくれ 虎に身を堕とした 理由 は……

名誉心・慢心・虚栄心・恐怖心・愚心・焦心・自己中心!

臆病な自尊心! 尊大な羞恥心!

才能ないのバレたくないの

そう人は誰でも猛獣使い(oh my god もう十分だろ?

臆病な自尊心! 尊大な羞恥心!

名誉心・慢心・虚栄心・恐怖心・愚心・焦心・自己中心!

才能ないのバレたくないの

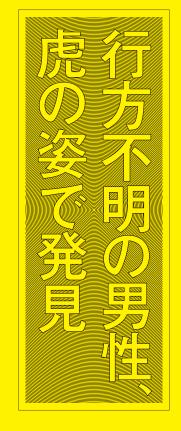
でも妻子よりも大志を優先 笑えるぜ 意地汚ねえ執念

これが俺の運の尽き 光失う明け方の月

tick tack 近づく 酔わねばならぬ時

さらば 袁傪 この出逢いに感謝

人の世、お前の向かう方向 届くか? 哀しき獣の咆哮

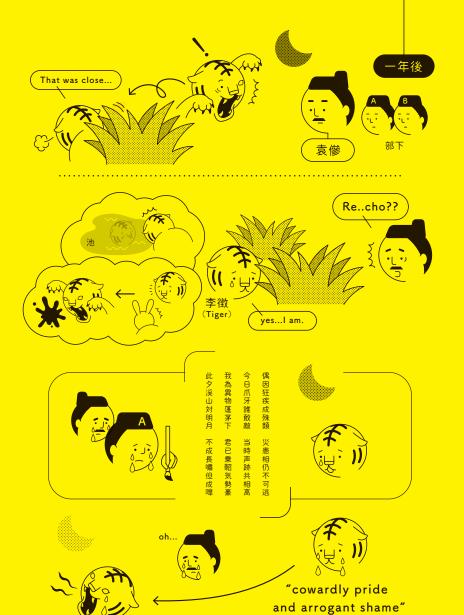


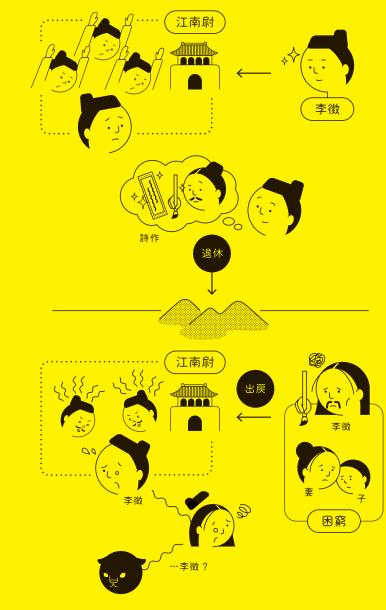
ころ、突然虎に襲われそうになっ 事件性は低いとのこと。ただし「周 と話しかけると、それを認めた。 を話したと言う。袁傪さんが「そ らに姿を隠しながらも、 た。虎は袁傪さんを襲わずに草む 官吏の李徴さんが、虎の姿となっ 査を続ける地元の警察によると、 の声は、我が友李徴子ではないか」 に、複数名で山中を歩いていたと て発見された。第一発見者は、友 から行方不明となっていた元地方 れる事例は初めてのことだが、捜 八間が他の生き物となって発見さ **八である袁傪さん。9月某日未明** 中国、商於の山林で、約一年前 人の言葉



らまし、現在の状況は不明である。である」と明らかにした。李徴さんと思われる虎はその後、姿をくんと思われる虎はその後、姿をくんと思われる虎はその後、姿をくんと思われる虎はその後、姿をはいたの出

20 19





終

22

ともに、わがおくびょうなじそんしんと、 そんだいなしゅうちしんとのせい